

平成22年度（2010年度） 入域観光客統計概況

- 平成22年度の入域観光客数は、571万7,900人
(対前年度比 +2万7,900人、+0.5%)
- うち外国人観光客数は、28万2,800人となり、過去最高の記録
(対前年度比 +3万6,600人、+14.9%)
- 特に、香港、中国本土、韓国からの観光客数が過去最高を記録

国内外別入域状況

区分	入域観光客数	前年度実績	前年度比(人)	前年度比(%)
国内客	5,435,100 人	5,443,800 人	△ 8,700 人	△ 0.2%
外国客	282,800 人	246,200 人	+ 36,600 人	+ 14.9%
合計	5,717,900 人	5,690,000 人	+ 27,900 人	+ 0.5%

地域別入域状況(国内)

区分	入域観光客数	前年度実績	前年度比(%)	前年度比(%)	構成比
東京	2,686,000 人	2,680,800 人	+ 5,200 人	+ 0.2%	49.4%
関西方面	1,046,500 人	1,027,100 人	+ 19,400 人	+ 1.9%	19.3%
福岡方面	693,500 人	689,900 人	+ 3,600 人	+ 0.5%	12.8%
名古屋	459,300 人	475,400 人	△ 16,100 人	△ 3.4%	8.5%
その他	549,800 人	570,600 人	△ 20,800 人	△ 3.6%	10.1%
合計	5,435,100 人	5,443,800 人	△ 8,700 人	△ 0.2%	100.0%

国籍別入域状況(海外)

区分	外国人観光客数	前年度実績	前年度比(%)	前年度比(%)	構成比
台湾	116,900 人	98,800 人	+ 18,100 人	+ 18.3%	41.3%
韓国	18,500 人	12,500 人	+ 6,000 人	+ 48.0%	6.5%
中国本土	23,800 人	17,700 人	+ 6,100 人	+ 34.5%	8.4%
香港	50,900 人	28,600 人	+ 22,300 人	+ 78.0%	18.0%
アメリカ	8,700 人	12,700 人	△ 4,000 人	△ 31.5%	3.1%
イギリス(本国)	5,400 人	- 人	- 人	-	1.9%
その他	58,600 人	75,900 人	△ 17,300 人	△ 22.8%	20.7%
合計	282,800 人	246,200 人	+ 36,600 人	+ 14.9%	100.0%

※イギリスは、平成22年4月から集計開始

月別入域状況

	平成22年度						(参考)平成21年度		
	総数	前年同月比	国内客		外国客		総数	国内客	外国客
			前年同月比	前年同月比	前年同月比	前年同月比			
4月	471,900	105.2%	450,900	104.7%	21,000	118.6%	448,400	430,700	17,700
5月	465,000	109.9%	434,400	105.5%	30,600	261.5%	423,300	411,600	11,700
6月	427,700	100.2%	394,400	100.2%	33,300	100.0%	426,800	393,500	33,300
7月	543,000	102.9%	502,900	101.6%	40,100	121.5%	527,800	494,800	33,000
8月	635,700	105.6%	600,800	105.5%	34,900	108.0%	601,900	569,600	32,300
9月	550,800	106.9%	513,000	105.3%	37,800	134.0%	515,200	487,000	28,200
10月	499,500	104.1%	470,900	103.5%	28,600	114.4%	479,900	454,900	25,000
11月	430,900	101.1%	422,500	102.7%	8,400	56.0%	426,300	411,300	15,000
12月	420,400	97.7%	409,800	97.7%	10,600	100.0%	430,200	419,600	10,600
1月	406,200	97.1%	392,000	95.9%	14,200	151.1%	418,300	408,900	9,400
2月	430,400	96.3%	415,500	96.2%	14,900	100.0%	447,000	432,100	14,900
3月	436,400	80.1%	428,000	80.8%	8,400	55.6%	544,900	529,800	15,100
年度計	5,717,900	100.5%	5,435,100	99.8%	282,800	114.9%	5,690,000	5,443,800	246,200

平成22年度の概況

【総数】

11月までは各種イベントの開催や海外航空定期便の増便、チャーター便の運航、官民一体となった誘客活動が功を奏し、国内、海外ともに順調に推移した。12月以降は、各航空会社による路線縮小にともない国内客は前年同月実績を下回った。また、3月は東日本大震災の影響等により前年同月実績が10万人以上減少したことから、平成22年度全体では前年度実績に対し小幅な伸びにとどまった。

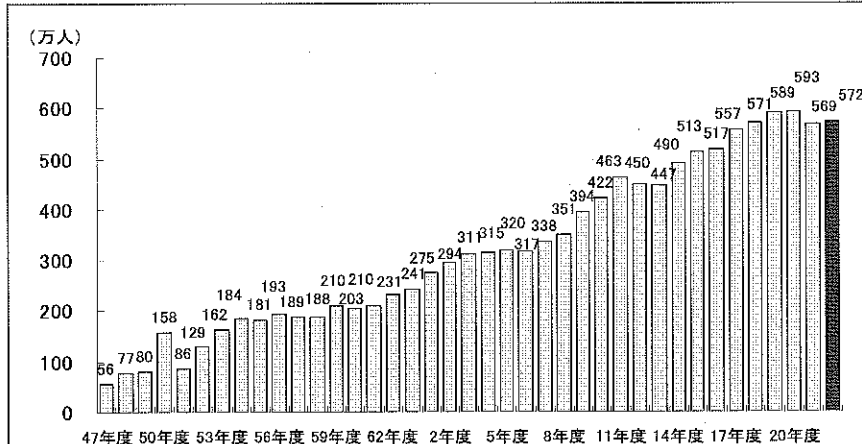
【国内】

平成22年度上半期は、高校総体等、各種イベントが開催されたこと、旅行需要が回復基調で推移したことから前年同月実績を上回って推移した。しかし、各航空会社の路線縮小にともなう提供座席数の減少により、12月以降は前年同月実績を下回り、3月には東日本大震災によるキャンセルのため、10万人以上落ち込んだことから、年度として前年度実績を下回った。

【海外】

外国人観光客数は、「インバウンド強化年」として官民一体となり取組んだ結果、空路客が好調に推移し過去最高の記録となった。空路客については、尖閣諸島問題や東日本大震災による影響があったものの、香港-那覇間の航空定期便の増加や台湾、北京等各方面からのチャーター便運航により、年間通して好調に推移した。一方、海路客については、大型クルーズ船の寄港数が減少したことから前年度実績を下回った。

入域観光客数の推移(年度)



平成22年(2010年)

4月

入域観光客統計概況

4月の観光客数は、47万1,900人
 対前年同月比 +23,500人、+5.2%
 ～3ヶ月連続で前年実績を上回った～

国内外別入域状況

区分	入域観光客数(うち特別上陸者数)	前年同月比(人)		前年同月比(%)		対H20年同月比			
国内客	450,900	人	+	20,200	人	+	4.7%	△	3.2%
外国客	21,000 (2,200)	人	+	3,300	人	+	18.6%	+	14.8%
合計	471,900	人	+	23,500	人	+	5.2%	△	2.5%

主要航路別入域状況

区分	入域観光客数	前年同月比(人)		前年同月比(%)		国内客構成比(%)	対H20年同月比
東京	214,300 人	+	8,100 人	+	3.9%	47.5%	△ 2.3%
関西方面	90,700 人	+	6,700 人	+	8.0%	20.1%	△ 5.9%
福岡方面	57,000 人	+	4,900 人	+	9.4%	12.6%	+
名古屋	42,200 人	+	2,100 人	+	5.2%	9.4%	△ 8.1%

区分	外国人観光客数(うち特別上陸者数)	前年同月比(人)		前年同月比(%)		外国客構成比(%)	対H20年同月比
台湾	3,500 (0) 人	+	600 人	+	20.7%	16.7%	△ 60.7%
韓国	900 (0) 人	+	500 人	+	125.0%	4.3%	+
上海(中国本土)	900 (400) 人	+	300 人	+	50.0%	4.3%	△ 60.9%
香港	2,500 (0) 人	+	100 人	+	4.2%	11.9%	+
アメリカ	3,200 (0) 人	+	1,000 人	+	45.5%	15.2%	+
イギリス(本国)	1,900 (100) 人	-	人	-	-	9.0%	-
フランス	200 (0) 人	-	人	-	-	1.0%	-

※外国人観光客数は、沖縄県が独自に推計したものであり、10の位で四捨五入してある。

※イギリス・フランスは、今年から集計を始めた。

■ 概況

●国内客については、中旬は前年実績を下回ったものの、上旬には琉球海炎祭の開催、下旬には東京ガールズコレクションin沖縄の開催やゴールデンウィーク前半の集客があったことから順調に推移し、月全体としては、前年実績を上回った。特に、福岡方面は福岡－那覇線の送客が好調だった。

旅行マインドは本格的な回復に至っていないが、低価格商品が好調だったことや大型イベントの開催が昨年対比で増加した要因と見られる。

●外国客については、個人旅行が好調だったことに加え、クルーズ船による送客数が昨年より多かったことから、前年同月実績を上回った。また、台湾や韓国からチャーター便が運航されたことも底上げにつながった。

■ 今後(1～3ヶ月後)の見通し

●国内客については、ゴールデンウィークの集客は前年を上回ったものの、連休後については、旅行マインドの低迷や福岡方面からの提供座席数減少等から、前年並みか前年割れで推移するものと見られる。

6月以降については、関西方面の提供座席数が先月の福岡方面に続き減少するため、減少傾向で推移するものと見られる。

●外国客については、5月は、香港からの航空定期便の運航回数が増えたこと、台湾からの定期クルーズ船の運航も開始されたことから、順調に推移するものと見られる。

6月については、香港－那覇路線の提供座席数の大幅増というプラス要因があるものの、クルーズ船の寄港回数が昨年よりも3回少ないことから、前年を下回ると見られる。7月末から開催される高校総体の開催で宿泊施設の確保が課題となっている。

■ 6月のトピックス

月全体	下旬
ハーリー 沖縄県内各所で開催。 (糸満市・恩納村・渡嘉敷村など)	「うたの日コンサート2010」 日程：6月26日(土)

担当：観光企画課 宮良(ミヤラ)
TEL:098-866-2763

平成22年（2010年） 入域観光客統計概況 5月

5月の観光客数は、46万5,000人
対前年同月比 +41,700人、+9.9%
～4ヶ月連続で前年同月実績を上回った。
また、5月の実績では、過去最高の記録となった～

国内外別入域状況

区分	入域観光客数(うち特別上陸者数)	前年同月比(人)	前年同月比(%)	対H20年同月比
国内客	434,400	人 + 22,800	人 + 5.5%	+ 0.6%
外国客	30600 (6700)	人 + 18,900	人 + 161.5%	+ 21.9%
合計	465,000	人 + 41,700	人 + 9.9%	+ 1.8%

主要航路別入域状況(国内)

区分	入域観光客数	前年同月比(人)	前年同月比(%)	対H20年同月比
東京	186,700 人	△ 500 人	△ 0.3%	△ 0.4%
関西方面	105,600 人	+ 19,600 人	+ 22.8%	+ 6.8%
福岡方面	52,900 人	+ 900 人	+ 1.7%	+ 1.7%
名古屋	39,200 人	+ 2,900 人	+ 8.0%	+ 2.6%

主要航路別入域状況(海外)

区分	外国人観光客数	前年同月比(人)	前年同月比(%)	外国人観光客比(%)	対H20年同月比
台湾	14,000 人	+ 9900 人	+ 241.5%	45.8%	+ 2.2%
韓国	1,400 人	+ 300 人	+ 27.3%	4.6%	+ 100.0%
上海(中国本土)	1400 (100) 人	+ 900 人	+ 180.0%	4.6%	△ 50.0%
香港	5,500 人	+ 3500 人	+ 175.0%	18.0%	+ 243.8%
アメリカ	400 人	△ 200 人	△ 33.3%	1.3%	△ 20.0%
イギリス(本国)	200 人	- 人	-	0.7%	-
フランス	0 人	- 人	-	0.0%	-

※外国人観光客数の(括弧)内の数値は、特例上陸者数の数値。なお、数値は内数である。
 ※外国人観光客数は、沖縄県が独自に推計したものであり、10の位で四捨五入してある。
 ※イギリス・フランスは、今年から集計を始めた。

概況

【国内】

国内客については、旅行者の低価格志向が続いているものの、昨年、新型インフルエンザの影響を受けた関西方面からの送客が対前年同月比で大きく伸びたため、前年同月実績を上回った。

ゴールデンウィーク期間も好調だったことや旅行商品が安くなる5月下旬にも人気が集まったことが増加の要因であると見られる。

【海外】

外国客については、昨年はなかった定期クルーズ船の寄港が今年は4回あったこと、香港からの観光客がドラゴン航空による定期チャーター便の運航により大きく伸びたことから前年同月実績を大きく上回った。

また、ゴールデンウィーク期間中に、釜山－那覇、北京－那覇等のチャーター便が運航されたことも底上げにつながった。

今後(1～3ヶ月後)の見通し

【国内】

国内客については、6月は、神戸・北九州路線の廃止というマイナス要因があるものの、昨年の6月が新型インフルエンザや景気低迷の影響を受けて落ち込んだため、前年同月実績を上回るものと見られる。

7・8月は、高校総体の開催や応援ツアーに加え、子ども手当支給による家族旅行需要の増加が見込まれるため、前年並みか前年を上回るペースで推移するものと見られる。

【海外】

6月については、香港－那覇路線の提供座席数が増加するものの、クルーズ船の寄港回数が昨年よりも3回少ないことから、ほぼ前年並みに推移するものと見られる。

6/28から香港航空が週6便の運航を開始するため、7月は本格的な香港からの送客増加が見込まれる。7、8月については、チャーター便の予定が複数あることや香港航空の運航は10月まで続くことから、順調に推移するものと見られる。

7月のトピックス

月全体	下旬
「ピースフルラブ・ロックフェスティバル2010」 日程：7月3日(土)～4日(日) 場所：沖縄市野外ステージ	「全国高校総体(美ら島沖縄総体2010)」 日程：7月28日(水)～8月20日(金)

担当：観光企画課 宮良(ミヤラ)

TEL:098-866-2763

入域観光客統計概況

6月

6月の観光客数は、42万7,700人
対前年同月比 +900人、+0.2%
～5ヶ月連続で前年同月実績を上回った。

国内外別入域状況

区分	入域観光客数(うち特例上陸者数)	前年同月比(人)				前年同月比(%)		対2009年同月比	
		人	+	人	+	人	+	△	△
国内客	394,400	人	+	900	人	+	0.2%	△	3.9%
外国客	33,300(7,100)	人		0	人		0.0%	+	16.8%
合計	427,700	人	+	900	人	+	0.2%	△	2.5%

主要航路別入域状況(国内)

区分	入域観光客数	前年同月比(人)				前年同月比(%)		対2009年同月比	
		人	+	人	+	人	+	△	△
東京	193,000	人	+	5,900	人	+	3.2%	48.9%	△ 3.6%
関西方面	74,500	人	△	1,400	人	△	1.8%	18.9%	△ 5.5%
福岡方面	52,700	人	+	1,000	人	+	1.9%	13.4%	+
名古屋	35,200	人	△	2,700	人	△	7.1%	8.9%	△ 12.2%

主要航路別入域状況(海外)

区分	外国人観光客数	前年同月比(人)				前年同月比(%)		対2009年同月比	
		人	+	人	+	人	+	△	△
台湾	17,300(1,400)	人	+	2,100	人	+	13.8%	52.0%	+
韓国	800	人	+	100	人	+	14.3%	2.4%	+
中国本土	3,100(2,600)	人	△	300	人	△	8.8%	9.3%	+
香港	5,700	人	+	3,500	人	+	159.1%	17.1%	+
アメリカ	400	人	△	200	人	△	33.3%	1.2%	△
イギリス(本国)	200	人	-	-	人	-	-	0.6%	-
フランス	0	人	-	-	人	-	-	0.0%	-

※イギリス・フランスは、今年から集計を始めた。

※外国人観光客数の(括弧)内の数値は、特例上陸者数の数値。なお、数値は内数である。

概況と見通し

【国内】

● 路線数が減少した関西方面や名古屋は減少したものの、昨年減少幅が大きかった東京からの観光客数が、今年は個人旅行需要が好調だったことにより昨年対比で伸びたため、前年同月実績を上回った。

● 今後の見通しとしては、7、8月は高校総体の開催により、堅調な推移が見込まれる。9月は、シルバーウィークの日並びが昨年よりも悪いことや提供座席数の減少等から伸び悩むものとみられる。

【海外】

● クルーズ船の寄港回数が昨年よりも3回少なく海路客は減少したものの、香港－那覇の航空定期便の増便やチャーター便数の増加があり空路客が増加したことから、総数としては、前年同月並みとなった。

● 9月まで香港－那覇間の航空定期便数が昨年よりも8便増加していること、チャーター便も昨年よりも多く予定されていることから、今後も堅調に推移するものと見られる。

東京

- 昨年6月は航空会社各社の大幅な割引により旅行需要が7月上旬にシフトし減少した。その反動により今年の6月は前年同月実績を上回った。
- 7月、8月は子ども手当による家族旅行需要が見込まれる。9月は昨年のシルバーウィークの日並びが良かったことの反動から、昨年以上の観光客数は厳しい見通し。

大阪

- 5月の関西－那覇の減便に続き、6月も神戸－那覇、神戸－石垣の2路線が廃止され提供座席数が減少したことから、前年同月実績を下回った。
- 7月、8月は高校総体のための臨時便運航により前年並みの実績が見込まれる。9月については、航空提供座席数減少の影響を受け伸び悩む見通し。

福岡

- 5月から北九州－那覇線が廃止されたものの、他路線の利用が増加したため、前年同月実績を上回った。
- 7、8月は高校総体の応援ツアー等も見込まれ、前年同月実績を上回るものと見られる。8月から10月までスカイマークにより北九州－那覇線が運航されるため、前年並みの推移が見込まれる。

名古屋

- 低価格商品には動きがあるものの、いまだ旅行需要は本格的な回復に至っていない。
- 7月、8月は高校総体開催により前年並みの推移が見込まれる。9月は、日並びが昨年よりも悪いことや海外旅行人気から前年同月実績を下回るものと見られる。

台湾

- 台湾からの定期クルーズ船の寄港が前年同月に比べ1回少なかったものの、チャーター便の運航により空路客が増加したことから、台湾全体としては前年同月実績を上回った。
- 7月、9月は定期クルーズの寄港回数が前年同月に比べ少ないものの、空路客はチャーター便が引き続き予定されていることから、台湾全体としては堅調に推移するものと見られる。

韓国

- 航空機材縮小や現地の地方選挙等のマイナス要因があったものの、景気回復や為替の安定により個人旅行客を中心に伸び、ほぼ前年同月並となった。
- 6月に自粛された旅行需要が7月へシフトすることが予想されること、7、8月はチャーター便が予定されていることから、前年同月実績を上回るものと見られる。

中国本土

- 北京からのチャーター便運航があったものの、定期クルーズ船の寄港が昨年の6月よりも1回少なかったことから前年同月実績を下回った。
- 10月まで北京発のチャーター便運航が継続されること、8月、9月には成都発のチャーター便が予定されていることから堅調に推移するものと見られる。

香港

- ドラゴン航空による定期チャーター便が週2便運航されたことから、前年同月実績と比べ大幅に増加した。
- 6月28日から10月末まで香港航空が週6便の定期チャーター便の運航を開始することから、今後も順調に推移するものと見られる。

8月のトピックス

上旬	月全体
夏祭りin那覇1万人エイサー踊り隊2010 日程:7月30日(金)～8月1日(日)	「第33回宜野湾はごろも祭り」 日程:8月14日(土)・8月15日(日)

平成22年(2010年) 入域観光客統計概況 7月

平成22年8月公表資料

7月の観光客数は、54万3,000人
対前年同月比 +1万5,200人、+2.9%
～6ヶ月連続で前年同月実績を上回った。～
～また、7月としては、過去最高の記録となった。～

国内外別入域状況

区分	入域観光客数(うち特例上陸者数)	前年同月比(人)		前年同月比(%)		対H20年同月比			
国内客	502,900	人	+	8,100	人	+	1.6%	+	2.0%
外国客	40,100 (7,500)	人	+	7,100	人	+	21.5%	+	24.1%
合計	543,000	人	+	15,200	人	+	2.9%	+	3.3%

主要航路別入域状況(国内)

区分	入域観光客数	前年同月比(人)		前年同月比(%)		国内客構成比(%)	対H20年同月比			
東京	256,700	人	+	4,500	人	+	1.8%	51.0%	+	2.1%
関西方面	95,300	人	+	1,300	人	+	1.4%	19.0%	+	0.3%
福岡方面	61,600	人	+	4,500	人	+	7.9%	12.2%	+	11.4%
名古屋	38,900	人	△	1,700	人	△	4.2%	7.7%	△	10.8%

主要航路別入域状況(海外)

区分	外国人観光客数	前年同月比(人)		前年同月比(%)		外国人構成比(%)	対H20年同月比			
台湾	20,000	人	+	300	人	+	1.5%	49.9%	+	25.8%
韓国	1,100	人	△	100	人	△	8.3%	2.7%	△	15.4%
中国本土	4500(2,700)	人	+	3,500	人	+	350.0%	11.2%	+	50.0%
香港	7,400	人	+	4,400	人	+	146.7%	18.5%	+	57.4%
アメリカ	500	人	△	300	人	△	37.5%	1.2%	△	16.7%
イギリス(本国)	500	人	-	人	-	-	-	1.2%	-	-
フランス	0	人	-	人	-	-	-	0.0%	-	-

※イギリス・フランスは、平成22年4月から集計を始めた。

※外国人観光客数の(括弧)内の数値は、特例上陸者数の数値。なお、数値は内数である。

概況と見通し

【国内】

- 名古屋は減少したものの、高校総体開催による団体需要があったため、総数としては前年同月実績を上回った。
- 今後の見通しとしては、8月は高校総体の開催と家族旅行需要により、堅調な推移が見込まれる。9月、10月は連休の日並びが昨年よりも悪いことや提供座席数の減少等から厳しい状況となる見通し。続く円高傾向により、海外へ旅行客がシフトすることも懸念される。

【海外】

- クルーズ船の寄港回数が昨年よりも2回少なく海路客は減少したものの、香港－那覇の航空定期便の増便やチャーター便の運航による送客が好調だったことから、総数としては前年同月実績を上回った。
- 香港－那覇間の航空定期便数が昨年と比べて週8便多い状況が10月末まで続くこと、チャーター便も昨年よりも多く予定されていることから、今後も堅調に推移するものと見られる。

東京

- 7月前半は夏休み前、高校総体の開催前であることから旅行が手控えられたが、後半は高校総体による送客があり好調だったため、月全体としては前年同月実績を上回った。
- 8月は家族旅行を中心に好調に推移する見込み。9月は昨年シルバーウィークの日並びが良かったことの反動から、昨年以上の観光客数は厳しい見通し。

大阪

- 神戸路線の廃止により提供座席数が大幅に減少したものの、臨時便の運航により関西空港を利用した送客が好調だったため、前年同月実績を上回った。
- 高校総体後である8月末への一般旅行者のシフトや臨時便の運航があることから、8月は、ほぼ前年並みの実績が見込まれる。9、10月については、航空提供座席数の減少により厳しい見通し。

福岡

- 一般旅行者の送客は旅行会社各社ばらつきはあったものの、高校総体開催による需要があったため前年同月実績を上回った。
- 8月は高校総体の応援ツアーと一般の観光需要により前年同月実績を上回る見通し。9月は昨年よりも連休の日並びが悪く、10月からは福岡-那覇の減便が予定されており、厳しい状況になると見られる。

名古屋

- 高校総体による団体需要があったものの、機材縮小や一般観光客の取り込みに苦戦したことから、前年同月実績を下回った。
- 8月は高校総体需要に加え、お盆以降の予約が比較的好調なことからほぼ前年並みの推移が見込まれる。9月以降は、日並びの悪さや機材縮小の影響等から前年同月実績を下回るものと見られる。

台湾

- 台湾からの定期クルーズ船の寄港が昨年に比べ2回少なかったものの、チャーター便の運航により空路客が増加したことから、台湾全体としては前年同月実績を上回った。
- 8月はチャーター便の予定はないものの、定期クルーズ船の寄港が昨年を上回っているためほぼ前年並みの実績が見込まれる。9月、10月は、社員旅行、インセンティブツアーの予約が多いことから、堅調に推移するものと見られる。

韓国

- 7月は、6月に地方選挙やワールドカップにより自粛された旅行需要がシフトしたため、前年同月実績を下回った。
- 8月は高校総体の影響で宿泊施設の予約がしづらくなっているため前年同月実績を下回ると見られる。9月は旧盆連休が最大9連休となるため旅行需要増加が期待される。10月はその反動により伸び悩むものと見られる。

中国本土

- 7月から北京発のチャーター便の運航が開始されたことから前年同月実績を上回った。
- 10月まで北京発のチャーター便の運航が継続されること、9月には成都発のチャーター便が予定されていることから今後も堅調に推移するものと見られる。

香港

- 香港エクスプレス航空・ドラゴン航空に加え、6月28日から香港航空が週6便の運航を開始したことで提供座席数が大幅に増加し、前年同月実績を上回った。
- 10月末まで香港路線は週15便体制が続くため、今後も順調に推移するものと見られる。

■ 9月のトピックス

上旬	中旬
第55回 沖縄全島エイサーまつり 日程:9月3日(金)~9月5日(日)	糸満大綱引き 日程:9月22日(水)

平成22年(2010年) 入域観光客統計概況 8月

平成22年9月公表資料

8月の観光客数は、63万5,700人。
対前年同月比 +33,800人、+5.6%
～7ヶ月連続で前年同月実績を上回った。～
～また、月間の観光客数としては、過去最高の記録となった。～

国内外別入域状況

区分	入域観光客数(うち特例上陸者数)	前年同月比(人)		前年同月比(%)		対H20年同月比			
国内客	600,800	人	+	31,200	人	+	5.5%	+	0.4%
外国客	34,900 (6,500)	人	+	2,600	人	+	8.0%	+	23.3%
合計	635,700	人	+	33,800	人	+	5.6%	+	1.4%

主要航路別入域状況(国内)

区分	入域観光客数	前年同月比(人)		前年同月比(%)		国内客構成比(%)	対H20年同月比	
東京	301,700 人	+	22,700 人	+	8.1%	50.2%	+	3.1%
関西方面	119,400 人	+	4,400 人	+	3.8%	19.9%	△	4.9%
福岡方面	72,500 人	+	3,400 人	+	4.9%	12.1%	+	6.6%
名古屋	48,200 人	+	600 人	+	1.3%	8.0%	△	5.9%

主要航路別入域状況(海外)

区分	外国人観光客数	前年同月比(人)		前年同月比(%)		外国人構成比(%)	対H20年同月比	
台湾	17,100 人	+	500 人	+	3.0%	49.0%	+	28.6%
韓国	1,200 人	+	200 人	+	20.0%	3.4%	+	20.0%
中国本土	4,100 (2,300) 人	+	700 人	+	20.6%	11.7%	+	70.8%
香港	6,300 人	+	2,800 人	+	80.0%	18.1%	+	16.7%
アメリカ	300 人	△	200 人	△	40.0%	0.9%	△	50.0%
イギリス(本国)	300 人	-	人	-	-	0.9%	-	-
フランス	0 人	-	人	-	-	0.0%	-	-

※イギリス・フランスは、平成22年4月から集計を始めた。

※外国人観光客数の(括弧)内の数値は、特例上陸者数の数値。なお、数値は内数である。

概況と見通し

【国内】

- 8月前半は、高校総体開催による団体需要があったこと、後半は、家族旅行需要を中心に好調に推移したことから、前年同月実績を上回った。
- 9月は、連休の日並びが昨年よりも悪いことから、伸び悩むものと見られる。10月以降、景気低迷や新型インフルエンザで落ち込んだ前年実績は上回るものの、羽田空港の国際化や提供座席数の減少等マイナス要因があることから過去最高だった一昨年の実績には届かないものと見られる。

【海外】

- チャーター便の運航や香港-那覇の定期便を中心に好調に推移したことから前年同月実績を上回った。
- 9月以降も香港路線による送客増加が見込まれること、チャーター便運航やクルーズ船の寄港回数も昨年に比べ多いことから、順調に推移するものと見られる。一方で、続く円高傾向が沖縄旅行に与える今後の影響が懸念される。

東京

- 高校総体による団体需要があったことに加え、家族旅行や深夜便を利用した個人旅行需要が好調だったため、前年同月実績を上回った。
- 9月については、前年同月実績並みに推移することが見込まれる。10月、11月の動きは弱いものの、昨年が大きく落ち込んだため前年同月実績を上回るものと見られる。

大阪

- 8月は、前半までは高校総体需要、後半は個人旅行が好調だったため前年同月実績を上回った。
- 9月以降は、昨年の同時期、新型インフルエンザの影響により沖縄への旅行が手控えられ大きく減少したことから、前年実績を上回る推移が見込まれる。

福岡

- 高校総体需要と家族旅行を中心とした需要で好調に推移し、前年同月実績を上回った。北九州－那覇線の運航開始も底上げにつながったものと見られる。
- 9月は連休の日並びが悪いこと、提供座席数の減少等から前年同月実績を上回るのは厳しい状況。10月以降は、昨年の反動により前年実績を上回る推移が見込まれる。

名古屋

- 高校総体による団体需要に加え、家族旅行需要により堅調に推移したことから、前年同月実績を上回った。
- 9月は、連休の日並びが昨年よりも悪いことや機材縮小の影響から、前年同月実績を下回るものと見られる。10月、11月も引き続き厳しい状況が続くものと見られる。

台湾

- 定期クルーズ船の寄港が昨年の8月よりも1回多かったこと、チャーター便による送客があったことから順調に推移し、前年同月実績を上回った。
- 9月、10月はインセンティブツアーや社員旅行等、団体旅行需要を中心に好調に推移するものと見られる。

韓国

- 個人旅行需要が好調だったこと、チャーター便の運航もあったことから堅調に推移し、前年同月実績を上回った。
- 9月は旧盆連休があるため、現地における旅行需要増加が見込まれる。10月はインセンティブツアーやチャーター便運航が予定されていること、11月からは定期便の増便が予定されていることから堅調に推移するものと見られる。

中国本土

- 北京発のチャーター便運航により好調に推移し、前年同月実績を上回った。
- 引き続き同チャーター便の運航があることから、10月までは順調に推移するものと見られる。10月末で上海万博が閉幕することから送客増加が期待される。

香港

- 昨年の同じ時期と比べ、提供座席数が大幅に増加しており旅行需要も好調なため、前年同月実績を上回った。
- 10月までは、3社による運航体制が続くことから、順調な推移が見込まれる。香港航空が、定期便として週4便の運航を始めたことから11月も前年実績を上回るものと見られる。

■ 10月のトピックス

上旬	中旬
第40回 那覇まつり、那覇大綱挽 10月9日(土)～11日(月)	2010 全国エイサー大会 10月16日(土)～10月17日(日)

平成22年(2010年) 入域観光客統計概況 9月

平成22年10月公表資料

9月の観光客数は、55万800人。
対前年同月比 +3万5,600人、+6.9%
～8ヶ月連続で前年同月実績を上回った。～
～また、9月の観光客数としては、過去最高の記録となった。～

国内外別入域状況

区分	入域観光客数(うち特例上陸者数)	前年同月比(人)		前年同月比(%)		対H20年同月比			
国内客	513,000	人	+	26,000	人	+	5.3%	+	0.5%
外国客	37,800(9,000)	人	+	9,600	人	+	34.0%	+	55.6%
合計	550,800	人	+	35,600	人	+	6.9%	+	3.0%

主要航路別入域状況(国内)

区分	入域観光客数	前年同月比(人)		前年同月比(%)		国内客構成比(%)	対H20年同月比			
東京	262,300	人	+	20,800	人	+	8.6%	51.1%	+	0.2%
関西方面	104,100	人	+	2,400	人	+	2.4%	20.3%	△	2.0%
福岡方面	62,900	人	+	1,800	人	+	2.9%	12.3%	+	11.3%
名古屋	35,500	人	+	200	人	+	0.6%	6.9%	△	10.6%

主要航路別入域状況(海外)

区分	外国人観光客数	前年同月比(人)		前年同月比(%)		外国人構成比(%)	対H20年同月比			
台湾	17,600(100)	人	+	4,000	人	+	29.4%	46.6%	+	49.2%
韓国	800	人	+	300	人	+	60.0%	2.1%	+	60.0%
中国本土	4,600(3,100)	人	+	900	人	+	24.3%	12.2%	+	109.1%
香港	5,200	人	+	1,400	人	+	36.8%	13.8%	+	10.6%
アメリカ	600	人	+	300	人	+	100.0%	1.6%	+	50.0%
イギリス(本国)	400	人	-	人	-	-	-	1.1%	-	-
フランス	0	人	-	人	-	-	-	0.0%	-	-

※イギリス・フランスは、平成22年4月から集計を始めた。

※外国人観光客数の(括弧)内の数値は、特例上陸者数の数値。なお、数値は内数である。

概況と見通し

【国内】

- 連休の日並びは昨年より良くなかったものの、高校総体開催により7、8月の個人旅行需要が8月末から9月にシフトしたことから、昨年対比で順調に推移し前年同月実績を上回った。
- 10月、11月は昨年同時期の景気低迷や新型インフルエンザ流行の反動により増加基調で推移する見通し。しかし、航空路線の減便や連休により今後の市場環境は厳しくなるものと見られる。

【海外】

- クルーズ船が昨年並みに推移したこと、台湾や北京からのチャーター便の運航があったことから、前年同月実績を大きく上回った。
- 10月はクルーズ船の寄港予定が昨年よりも3回多く順調な推移が見込まれるが、11月以降、台湾航空定期便、香港及び北京発チャーター便のキャンセルによる影響が懸念される。

東京

- 例年7、8月に多い家族旅行など個人旅行が、沖縄での高校総体開催により9月にシフトしたため、前年同月実績を上回った。
- 10月、11月は、昨年と同時期に、景気低迷や新型インフルエンザの流行により大きく落ち込んだため、前年同月実績を上回って推移するものと見られる。

大阪

- 昨年の落ち込みの反動や高校総体開催により個人旅行が8月末から9月に多かったことなどから、前年同月実績を上回った。
- 10月、11月は、昨年と同時期、景気低迷や新型インフルエンザの影響により沖縄への旅行が手控えられたことの反動により、前年実績を上回る推移が見込まれる。

福岡

- 連休の日並びは昨年より悪かったものの、旅行者が旅行料金の安くなる9月にシフトしたことなどから、前年同月実績を上回った。
- 10月以降も昨年の落ち込みの反動により、前年同月実績を上回る推移が見込まれる。しかし、今後、福岡路線が減便、北九州路線が運休されることから、市場環境は厳しくなるものと見られる。

名古屋

- 修学旅行など団体需要が例年並みに推移したこと、9月の個人旅行も好調だったことから前年同月実績を上回った。
- 10月、11月は、昨年大きく落ち込んだことから、前年同月実績を上回るものと見られる。11月から減便予定があるものの、昨年の反動により12月も前年同月実績以上の推移が見込まれる。

台湾

- 定期クルーズ船の寄港が昨年よりも1回少なかったものの、チャーター便による送客があったこと、団体旅行が順調に推移したことから前年同月実績を上回った。
- 10月もインセンティブツアーや社員旅行等、団体旅行需要を中心に堅調な推移が見込まれる。11月以降、航空定期便の減便により昨年並みに推移するものと見られる。

韓国

- 旧盆連休が最大9連休となり遠隔地の旅行が志向されたことから伸び悩んだものの、個人旅行や小規模のインセンティブツアーがあったことから堅調に推移し、前年同月実績を上回った。
- 10月はチャーター便運航が予定されていることから前年並みの実績が見込まれる。11月以降も航空定期便の増便により堅調に推移するものと見られる。

中国本土

- 北京発のチャーター便運航により好調に推移し、前年同月実績を上回った。
- 10月は国慶節による連休があったものの、12月までチャーター便の運航がないため、ほぼ前年同月実績並みに推移するものと見られる。

香港

- 9月に香港航空によるチャーター便が定期便化し、昨年よりも週4便多い運航状況となったことから、前年同月実績を上回った。
- 10月も航空会社3社による運航であることから順調な推移が見込まれる。11月以降、季節チャーター便に一部キャンセルがあるため伸び悩むものと見られる。

■ 11月のトピックス

上旬	中旬
琉球王朝祭り首里 11月3日(祝)	ツール・ド・オキナワ 2010 11月13日(土)～14日(日)

平成22年(2010年) 入域観光客統計概況 10月

平成22年11月公表資料

10月の観光客数は、49万9,500人。
対前年同月比 +1万9,600人、+4.1%
～9ヶ月連続で前年同月実績を上回った。～

国内外別入域状況

区分	入域観光客数(うち特例上陸者数)	前年同月比(人)		前年同月比(%)		対H20年同月比			
国内客	470,900	人	+	16,000	人	+	3.5%	△	8.8%
外国客	28,600(6,900)	人	+	3,600	人	+	14.4%	△	7.1%
合計	499,500	人	+	19,600	人	+	4.1%	△	8.7%

地域別入域状況(国内)

区分	入域観光客数	前年同月比(人)		前年同月比(%)		国内客構成比(%)	対H20年同月比			
東京	249,300	人	+	10,400	人	+	4.4%	52.9%	△	5.9%
関西方面	81,100	人	△	1,100	人	△	1.3%	17.2%	△	13.1%
福岡方面	56,600	人	+	2,300	人	+	4.2%	12.0%	△	1.0%
名古屋	35,700	人	+	300	人	+	0.8%	7.6%	△	22.1%

国籍別入域状況(海外)

区分	外国人観光客数	前年同月比(人)		前年同月比(%)		外国人構成比(%)	対H20年同月比			
台湾	11,500	人	+	3,400	人	+	42.0%	40.2%	△	17.3%
韓国	1,200	人	+	300	人	+	33.3%	4.2%	+	300.0%
中国本土	3,100(2,100)	人	+	800	人	+	34.8%	10.8%	+	158.3%
香港	3,300	人	+	400	人	+	13.8%	11.5%	△	21.4%
アメリカ	700	人	△	1,400	人	△	66.7%	2.4%	△	61.1%
イギリス(本国)	600	人	-	-	人	-	-	2.1%	-	-
フランス	300	人	-	-	人	-	-	1.0%	-	-

※イギリス・フランスは、平成22年4月から集計を始めた。

※外国人観光客数の(括弧)内の数値は、特例上陸者数の数値。なお、数値は内数である。

概況と見通し

【国内】

- 10月は、景気低迷や新型インフルエンザ流行による減少が大きかった昨年同時期と比較し回復基調にあり、堅調に推移したことから前年同月実績を上回った。
- 11月、12月は、前年実績は上回るものの一昨年の水準まで回復するのは難しいものと見られる。1月以降は、航空路線の減便や運休、羽田空港の国際化や円高傾向に伴う海外旅行人気の高まりから等から厳しい状況になる見通し。

【海外】

- クルーズ船による前年並みの送客があったこと、台湾や香港からの空路による送客が順調に推移したこと等から、前年同月実績を上回った。
- 11月は、台湾、香港発航空定期便の減便による影響等から、ほぼ前年並みに推移すると見られる。11月下旬から香港発チャーター便が定期便化すること、1月は釜山発のチャーター便が予定されていることから12月以降は堅調な推移が見込まれる。

東京

- 旅行需要は持ち直しつつあり、個人旅行、団体旅行ともに順調に推移したことから前年同月実績を上回った。
- 11月は、個人旅行、団体旅行ともに堅調に推移する見込み。12月以降については動きが弱いものの、昨年の減少幅が大きかったため、ほぼ前年同月実績並みに推移するものと見られる。

大阪

- 関西路線については堅調に推移したものの、神戸路線の廃止により送客数が減少したことから前年同月実績を下回った。
- 11月以降も、航空路線の減便・廃止の影響から、大幅な減少ではないものの、前年同月実績を下回って推移するものと見られる。

福岡

- 個人旅行需要が持ち直しつつあること、前年同時期の景気低迷や新型インフルエンザによって大きく減少した反動があったことから、前年同月実績を上回った。
- 福岡路線の減便・運休、北九州路線の運休等から、市場環境の厳しさは続くものの、11月、12月は、昨年の落ち込みの反動により、前年同月実績を上回る推移が見込まれる。

名古屋

- 航空路線の減便がマイナス要因として作用したものの、個人旅行が堅調に推移したことから、前年同月実績を上回った。
- 11月、12月は、旅行会社各社の予約状況や昨年の落ち込みの反動等から前年同月実績を上回るものと見られる。1月以降は、減便や旅行料金の値上げ等から不透明な状況である。

台湾

- 10月は、台湾－石垣間のチャーター便運航があったこと、インセンティブツアー等団体旅行が堅調に推移したことから、前年同月実績を上回った。
- 11月以降、上記チャーター便の終了や航空定期便が減便され昨年と同じ便数になること等から、ほぼ前年同月実績並みに推移するものと見られる。

韓国

- 10月は、21、24日にチャーター便の運航があったことから、前年同月実績を上回った。
- 10月末から航空定期便が増便され昨年よりも週2便多い運航状況となること、1月には釜山からのチャーター便が予定されていること等から順調に推移するものと見られる。

中国本土

- 国慶節連休の旅行については、堅調に推移し、前年同月実績を上回った。
- 今後は、個人旅行や小規模な団体旅行の予約はあるものの、尖閣諸島問題の影響による訪日旅行自体の手控えが懸念される。

香港

- 10月は、航空会社3社による運航体制で、前年同月に比べ週4便多く運航されたことから、前年同月実績を上回った。
- 11月は、季節チャーター便の一部キャンセルがあるため伸び悩むものと見られる。11月下旬に同チャーター便が運航再開、さらに定期便化する予定であることから12月以降は、堅調に推移するものと見られる。

■ 12月のトピックス

上旬	中旬
第26回 NAHAMARASON 12月5日(日)	第22回 名護・やんばるツーデーマーチ 12月12日(土)・13日(日)

平成22年(2010年) 入域観光客統計概況 11月

平成22年12月公表資料

11月の観光客数は、43万900人。
対前年同月比 +4,600人、+1.1%
～10ヶ月連続で前年同月実績を上回った。～

国内外別入域状況

区分	入域観光客数(うち特例上陸者数)	前年同月比(人)	前年同月比(%)	対H20年同月比
国内客	422,500	人 + 11,200	人 + 2.7%	△ 9.6%
外国客	8,400 (400)	人 △ 6,600	人 △ 44.0%	△ 53.8%
合計	430,900	人 + 4,600	人 + 1.1%	△ 11.2%

地域別入域状況(国内)

区分	入域観光客数	前年同月比(人)	前年同月比(%)	国内客構成比(%)	対H20年同月比
東京	212,000 人	+ 5,500 人	+ 2.7%	50.2%	△ 7.7%
関西方面	73,000 人	+ 3,800 人	+ 5.5%	17.3%	△ 7.0%
福岡方面	57,800 人	+ 1,000 人	+ 1.8%	13.7%	△ 6.9%
名古屋	34,100 人	+ 1,000 人	+ 3.0%	8.1%	△ 23.4%

国籍別入域状況(海外)

区分	外国人観光客数	前年同月比(人)	前年同月比(%)	外国人構成比(%)	対H20年同月比
台湾	3,200 人	△ 600 人	△ 15.8%	38.1%	△ 25.6%
韓国	1,400 人	+ 600 人	+ 75.0%	16.7%	+ 75.0%
中国本土	100 人	- 人	-	1.2%	△ 87.5%
香港	2,100 人	+ 500 人	+ 31.3%	25.0%	0.0%
アメリカ	300 人	△ 1,400 人	△ 82.4%	3.6%	△ 85.0%
イギリス(本国)	200 人	- 人	-	2.4%	-

※イギリス・フランスは、平成22年4月から集計を始めた。

※外国人観光客数の(括弧)内の数値は、特例上陸者数の数値。なお、数値は内数である。

概況と見通し

【国内】

- 11月は、昨年同時期に景気低迷や新型インフルエンザの影響により手控えられていた旅行需要が、回復傾向で推移したことから前年同月実績を上回った。
- 12月は、提供座席数が昨年よりも減少していることから、弱い動きが続くものと見られる。1月も羽田空港の国際化や円高傾向に伴う海外旅行人気等から伸び悩む見通し。2月以降は、県内で予定されているイベントやプロ野球キャンプによる送客増加が期待される。

【海外】

- 航空定期便の増便等から空路客は前年同月実績並みだったが、昨年2回寄港した大型クルーズ船の寄港がなく海路客が大きく減少したため、外国客総数としては前年同月実績を下回った。
- 12月は、航空定期便の増便により空路客は増加、クルーズ船の寄港がないため海路客は減少する見通しであることから、外国客総数としては前年同月実績並みになるものと見られる。1、2月は、釜山や台湾、北京発のチャーター便が予定されているため順調な推移が見込まれる。

東京

- 修学旅行など団体旅行については堅調に推移し、個人旅行についても前年並みに推移したことから、前年同月実績を上回った。
- 年末年始の動きが弱いものの前年同時期の減少が大きかったため、前年同月実績を上回って推移する見込み。1月以降は、旅行社各社の予約状況から堅調に推移するものと見られる。

大阪

- 昨年の減少幅が大きかったことの反動や修学旅行の好調な推移、神戸路線の廃止により伊丹空港の利用が促進されたこと等から、前年同月実績を上回った。
- 今後、航空定期便の運休・減便の影響を受けること、例年冬場の市場を牽引するシニア層の動きが低調であること等から厳しい状況が続くものと見られる。

福岡

- 航空定期便の減便や運休の影響により提供座席数は減少しているものの、景気低迷や新型インフルエンザによって大きく減少した前年よりも旅行需要は回復傾向にあったため、前年同月実績を上回った。
- 12月、1月は、旅行会社各社の予約状況から前年同月実績並みの推移が見込まれる。航空定期便の減便・運休、北九州路線の運休等から弱い動きは続くものと見られる。

名古屋

- 航空路線の減便や機材縮小による提供座席数の減少がマイナス要因として作用したものの、修学旅行など団体旅行が堅調に推移したことから、前年同月実績を上回った。
- 12月は、引き続き提供座席数の減少により前年並みとなる見通し。1月以降は、減便や旅行料金の値上げ等から厳しい状況が続くものと見られる。

台湾

- 航空会社によるキャンペーンにより個人旅行者は堅調に推移したものの、11月から航空定期便が減便されたことから前年同月実績を下回った。
- 12月、1月はオフシーズンとなること、円高の影響から送客は伸び悩むが、大型のインセンティブツアーがあることからほぼ前年並みに推移するものと見られる。旧正月連休にはチャーター便が複数予定されており、堅調に推移するものと見られる。

韓国

- 11月から航空定期便の運航回数が週3便から週5便となり、昨年同時期よりも週2便多くなったことから、前年同月実績を上回った。
- 12月からは冬場の旅行シーズンとなり送客増加が見込まれる。1月には釜山からのプログラムチャーターが予定されていること、2月もインセンティブツアーが数件予定されていること等から順調に推移するものと見られる。

中国本土

- 前年同月実績が少なかったため、尖閣諸島問題後の11月においても前年同月実績並みとなった。
- 今後も個人旅行や小規模な団体旅行が予定されており、ほぼ前年実績並みに推移するものと見られる。旧正月連休はチャーター便の予定もあることから堅調に推移する見込み。

香港

- 11月は、季節チャーター便に一部キャンセルがあり伸び悩んだものの、航空定期便が昨年11月よりも多い運航状況であったため前年同月実績を上回った。
- 12月は、香港ドラゴン航空の定期便化、年末年始の旅行需要増加等から堅調に推移するものと見られる。1月、2月は、需要に応じて香港航空による運航も予定されていることから順調な推移が見込まれる。

■ 1月のトピックス

中旬	下旬
美ら島オキナワCenturyRun2011 1月16日(土)	桜まつり(本部・今帰仁・名護・八重瀬) 1月下旬から2月上旬にかけて開催

平成22年(2010年) 入域観光客統計概況 12月

平成23年1月公表資料

12月の観光客数は、42万400人。対前年同月比 △9,800人、△2.3%
～平成22年1月以来、11ヶ月ぶりに前年同月実績を下回った～

また、平成22年の観光客数は、585万5,100人。対前年比 +20万4,300人、+3.6%

国内外別入域状況

区分	入域観光客数(うち特例上陸者数)	前年同月比(人)		前年同月比(%)		対H20年同月比	
国内客	409,800	人	△ 9,800	人	△ 2.3%	△	10.2%
外国客	10,600(100)	人	± 0	人	± 0.0%	+	37.7%
合計	420,400	人	△ 9,800	人	△ 2.3%	△	9.4%

地域別入域状況(国内)

区分	入域観光客数	前年同月比(人)		前年同月比(%)		国内客増減比(%)	対H20年同月比
東京	211,100 人	△ 700	人	△ 0.3%		50.2%	△ 8.4%
関西方面	71,200 人	△ 3,800	人	△ 5.1%		16.9%	△ 10.0%
福岡方面	54,500 人	△ 200	人	△ 0.4%		13.0%	+
名古屋	34,000 人	△ 1,800	人	△ 5.0%		8.1%	△ 21.8%

国籍別入域状況(海外)

区分	外国人観光客数	前年同月比(人)		前年同月比(%)		外国客増減比(%)	対H20年同月比
台湾	3,200 人	+ 200	人	+ 6.7%		30.2%	+ 45.5%
韓国	1,900 人	+ 600	人	+ 46.2%		17.9%	+ 280.0%
中国本土	200 人	△ 100	人	△ 33.3%		1.9%	± 0.0%
香港	3,500 人	+ 1,300	人	+ 59.1%		33.0%	+ 40.0%
アメリカ	300 人	△ 700	人	△ 70.0%		2.8%	△ 40.0%
イギリス(本国)	200 人	-	人	-		1.9%	-

※イギリス・フランスは、平成22年4月から集計を始めた。

※外国人観光客数の(括弧)内の数値は、特例上陸者数の数値。なお、数値は内数である。

概況と見通し

【国内】

- 12月は、昨年からの路線縮小の影響を受け神戸路線を中心に送客数が減少したこと、景気の先行き不透明感による節約志向の継続、海外旅行人気の高まり等から前年同月実績を下回った。
- 1月は、東京・福岡方面についてはほぼ前年並みに推移するが、関西・名古屋方面の提供座席数減少により前年同月実績を下回る見通し。提供座席数の減少や海外旅行人気等懸念材料はあるものの、2、3月は、プロ野球キャンプや県内でのイベント開催による集客増加が期待される。

【海外】

- 昨年12月に2回あったクルーズ船の寄港がなく海路客は減少したものの、航空定期便の増便等から空路客は順調に推移し、外国客総数としては前年同月実績並みとなった。
- 1、2月は、釜山や台湾、北京発のチャーター便が予定されているため送客増加が見込まれる。3月まで、韓国、香港の航空定期便の運航回数が昨年と同じ時期に比べて多いことから、順調に推移するものと見られる。

■ 各方面ごとの概況と見通し

平成23年1月公表資料

東京

- 団体旅行は回復基調にあったものの、割引料金が適用されない時期の個人旅行が一部伸び悩んだため、前年同月実績を下回った。
- 1月以降は、旅行社各社の予約状況から前年同月実績並みに推移するものと見られる。2月のプロ野球キャンプ関連や3月の卒業旅行の商品は好調とのことで堅調な推移が見込まれる。

大阪

- 航空路線縮小による提供座席数減少の影響を受けたことや海外旅行人気が高まったことから、前年同月実績を下回った。
- 提供座席数減少の影響や海外旅行人気等は今後も継続する。3月の九州新幹線開通に伴う旅行商品の発売など、他地域との競合が激化することから厳しい状況が続くものと見られる。

福岡

- スカイマークが送客数を伸ばしたものの、北九州路線の提供座席数減少の影響から前年同月実績をわずかに下回った。
- 1、2月は、引き続き提供座席数減少の影響を受けほぼ前年同月実績並みになるものと見られる。2月から3月下旬までの期間、福岡ー那覇線が増便されることから、3月まで順調な推移が見込まれる。

名古屋

- 昨年から続く機材縮小や減便による提供座席数の減少や旅行料金の値上がりによる旅行需要の減少等の影響から、前年同月実績を下回った。
- 1月以降も提供座席数減少の影響や旅行需要低迷を受け前年同月実績を下回って推移するものと見られる。プロ野球キャンプ地として注目が高まることから集客増加に期待したい。

台湾

- 昨年12月は11便運航された花蓮ー石垣間チャーター便が2便しか運航されなかったものの、航空定期便を利用した個人旅行需要は好調だったことから前年同月実績を上回った。
- 上記チャーター便の運航予定は昨年よりも少ないものの、個人旅行は好調に推移しており1月は前年並みになる見通し。2月以降も個人旅行の好調さに加え、団体旅行向けのキャンペーン実施による底上げが期待されること等から堅調な推移が見込まれる。

韓国

- 航空定期便が11月から週3便から週5便になったこと、テレビショッピング販売による送客も好調であったことから、前年同月実績を上回った。
- 1月は釜山からのプログラムチャーター、1月中旬から2月中旬までは航空定期便のデイリー運航が予定されていることから順調な推移が見込まれる。3月も引き続き堅調に推移するものと見られる。

中国本土

- 昨年12月末にあったチャーター便の運航がなかったため、前年同月実績を下回った。
- 1月以降、北京からのチャーター便が再開されることから、前年同月実績を上回る推移が見込まれる。今後も、旅行博におけるPRや2月上旬まで左記チャーター便の予定があること等から堅調に推移するものと見られる。

香港

- 12月は、航空定期便が昨年と同じ時期に比べ多い運航状況だったこと、年末年始の旅行需要増加等から堅調に推移し、前年同月実績を上回った。
- 1月～3月は、定期便数が昨年よりも2便上回るのに加え、需要に応じて香港航空による運航も予定されていることから順調な推移が見込まれる。

■ 2月のトピックス

上旬～	下旬
プロ野球春季キャンプ 2月上旬～3月上旬	めざましスーパーライブin沖縄 2月26日(土)、27日(日)

平成23年(2011年) 入域観光客統計概況 1月

平成23年2月公表資料

1月の観光客数は、40万6,200人。
対前年同月比 △1万2,100人、△2.9%
～平成22年12月から2ヶ月連続で前年同月実績を下回った～

国内外別入域状況

区分	入域観光客数	前年同月実績	前年同月比(人)	前年同月比(%)
国内客	392,000 人	408,900 人	△ 16,900 人	△ 4.1%
外国客	14,200 人	9,400 人	+ 4,800 人	+ 51.1%
合計	406,200 人	418,300 人	△ 12,100 人	△ 2.9%

地域別入域状況(国内)

区分	入域観光客数	前年同月実績	前年同月比(%)	前年同月比(%)	構成比
東京	200,100 人	205,100 人	△ 5,000 人	△ 2.4%	51.0%
関西方面	67,900 人	72,500 人	△ 4,600 人	△ 6.3%	17.3%
福岡方面	52,300 人	54,000 人	△ 1,700 人	△ 3.1%	13.3%
名古屋	34,100 人	37,000 人	△ 2,900 人	△ 7.8%	8.7%
その他	37,600 人	40,300 人	△ 2,700 人	△ 6.7%	9.6%
合計	392,000 人	408,900 人	△ 16,900 人	△ 4.1%	100.0%

国籍別入域状況(海外)

区分	外国人観光客数	前年同月実績	前年同月比(%)	前年同月比(%)	構成比
台湾	3,200 人	3,200 人	± 0 人	± 0.0%	22.5%
韓国	4,000 人	2,000 人	+ 2,000 人	+ 100.0%	28.2%
中国本土	800 人	400 人	+ 400 人	+ 100.0%	5.6%
香港	2,900 人	1,000 人	+ 1,900 人	+ 190.0%	20.4%
アメリカ	800 人	700 人	+ 100 人	+ 14.3%	5.6%
イギリス(本国)	300 人	- 人	+ 300 人	-	2.1%
その他	2,200 人	2,100 人	+ 100 人	+ 4.8%	15.5%
合計	14,200 人	9,400 人	+ 4,800 人	+ 51.1%	100.0%

※イギリスは、平成22年4月から集計を始めた。

※今月の特例上陸者数は800人(国籍は不明)。

概況と見通し

【国内】

- 1月は、昨年からの路線縮小の影響から提供座席数が前年同月よりも約7万席減少していることや、海外旅行人気の高まり等から前年同月実績を下回った。
- 2月は、プロ野球キャンプ関連商品が好調なことや福岡路線の増便などから、入域観光客数は増加するものと見込まれる。3月は国際映画祭や音楽祭等のイベントによる集客が期待されるが、海外旅行人気等の影響も懸念されることから、不透明な状況となっている。

【海外】

- 1月は、釜山や北京発のチャーター便が運航されたこと、航空定期便についても昨年よりも多い運航状況であったことから前年同月実績を上回った。
- 2月も引き続き上記チャーター便が運航されること、韓国、香港の航空定期便の運航回数が昨年の同じ時期に比べて多いことから、順調に推移するものと見られる。

東京

- 成人の日を含んだ3連休を中心に個人旅行が好調だったものの、提供座席数の減少、海外旅行人気の高まりから、前年同月実績を下回った。
- 2月はプロ野球キャンプ関連商品が好調に推移しており、前年同月実績並みに推移するものと見られる。3月は、羽田空港の国際線を利用した海外旅行の商品展開が活発化しており、沖縄への旅行には厳しい状況が続くものと見られる。

大阪

- 昨年からの航空路線縮小により提供座席数が昨年に比べ減少していることや厳しい経済状況による消費手控え等から前年同月実績を下回った。
- 3月は沖縄でのイベント開催により持ち直すものの、4月以降も新幹線を利用した九州方面への旅行やディズニーシー10周年等他地域との競合が激化することから厳しい状況が続くものと見られる。

福岡

- スカイマークが送客数を伸ばしたものの、昨年からの路線縮小の影響により提供座席数は昨年に比べ減少していることから、前年同月実績を下回った。
- 2、3月は、ANAの福岡ー那覇線が増便されること、沖縄での各種イベントの開催から前年同月実績並みの推移が見込まれる。4月以降、九州新幹線全線開通により新幹線を利用した商品展開が活発化することから伸び悩むものと見られる。

名古屋

- 昨年からの機材縮小や減便により提供座席数が昨年に比べ減少していることや旅行料金の値上がりによる旅行需要の減少等の影響から、前年同月実績を下回った。
- 2月は、プロ野球キャンプ関連商品を中心に予約状況は好調に推移している。3月以降も旅行会社各社の予約状況は堅調なことから前年並みに推移するものと見られる。

台湾

- 昨年6便あった花蓮ー石垣間のチャーター便の運航がなかったものの、高雄発チャーター便の運航、定期便による堅調な送客があったことから前年同月実績並みとなった。
- 2月は、旧正月連休があるものの、チャーター便や臨時便の予約状況は全体的に伸び悩んでおり前年並みになるものと見られる。4月は連休があり微増で推移する見込み。

韓国

- 航空定期便が1月からデイリー運航となり昨年よりも週4便多い運航状況であること、釜山からのプログラムチャーター便の運航があったことから前年同月実績を上回った。
- 2月中旬までは航空定期便のデイリー運航が継続することから順調な推移が見込まれる。3月以降も、定期便は昨年より週2便多く運航される予定であるため順調に推移するものと見られる。

中国本土

- 北京からのチャーター便が再開されたこと、定期便を利用した送客も好調だったことから、前年同月実績を上回った。
- 今後も、北京からのチャーター便の販売も順調であること、3月以降も小規模なツアーが数件予定されていることから堅調に推移するものと見られる。

香港

- 1月は、航空定期便が昨年よりも週5便多い運航状況であること、旅行需要も好調であることから、前年同月実績を上回った。
- 2月は、旧正月の旅行需要が好調であることから順調に推移するものと見られる。3月以降、旅行の閑散期になり増加幅は縮小するものの、定期便の運航回数が昨年よりも多いことから今後も順調な推移が見込まれる。

■ 3月のトピックス

中旬	中～下旬
第2回 沖縄国際アジア音楽祭 musix2011 3月18日(金)～20日(日)	第3回 沖縄国際映画祭 3月18日(金)～27日(日)

平成23年(2011年) 入域観光客統計概況 2月

平成23年3月公表資料

2月の観光客数は、43万400人。
対前年同月比 △1万6,600人、△3.7%
～平成22年12月から3ヶ月連続で前年同月実績を下回った～

国内外別入域状況

区分	入域観光客数	前年同月実績	前年同月比(人)	前年同月比(%)
国内客	415,500 人	432,100 人	△ 16,600 人	△ 3.8%
外国客	14,900 人	14,900 人	± 0 人	± 0.0%
合計	430,400 人	447,000 人	△ 16,600 人	△ 3.7%

地域別入域状況(国内)

区分	入域観光客数	前年同月実績	前年同月比(%)	前年同月比(%)	構成比
東京	205,300 人	211,900 人	△ 6,600 人	△ 3.1%	49.4%
関西方面	78,200 人	75,600 人	+ 2,600 人	+ 3.4%	18.8%
福岡方面	54,200 人	56,900 人	△ 2,700 人	△ 4.7%	13.0%
名古屋	36,400 人	44,000 人	△ 7,600 人	△ 17.3%	8.8%
その他	41,400 人	43,700 人	△ 2,300 人	△ 5.3%	10.0%
合計	415,500 人	432,100 人	△ 16,600 人	△ 3.8%	100.0%

国籍別入域状況(海外)

区分	外国人観光客数	前年同月実績	前年同月比(%)	前年同月比(%)	構成比
台湾	4,000 人	5,100 人	△ 1,100 人	△ 21.6%	26.8%
韓国	3,000 人	1,500 人	+ 1,500 人	+ 100.0%	20.1%
中国本土	900 人	1,800 人	△ 900 人	△ 50.0%	6.0%
香港	4,400 人	1,800 人	+ 2,600 人	+ 144.4%	29.5%
アメリカ	600 人	500 人	+ 100 人	+ 20.0%	4.0%
イギリス(本国)	400 人	- 人	- 人	-	2.7%
その他	1,600 人	4,200 人	△ 2,600 人	△ 61.9%	10.7%
合計	14,900 人	14,900 人	± 0 人	± 0.0%	100.0%

※イギリス・フランスは、平成22年4月から集計を始めた。

※今月の特例上陸者数は600人。

概況と見通し

【国内】

- 2月は、昨年からの減便や機材縮小の影響から前年同月と比べ1万席以上提供座席数が減少しており、週末等の需要が取り込めず前年同月実績を下回った。
- 3月11日に発生した「東北地方太平洋沖地震」や福島第一原発の問題等により、厳しい状況である。今後は大きな影響が想定されるが、詳細については不透明な状況である。

【海外】

- 2月は航空定期便については順調に推移したものの、クルーズ船の寄港が昨年よりも少なかったことから、外国人総数としては前年同月実績並みとなった。
- 3月下旬、4月の沖縄旅行へのキャンセルが相次いでいる。各国政府から国民に対して、日本への渡航自粛が求められており、厳しい状況である。

東京

- プロ野球キャンプの話題性から個人客を中心に好調に推移したものの、団体客が伸び悩んだため、前年同月実績を下回った。
- 3月11日に発生した「東北地方太平洋沖地震」や福島第一原発の問題等による影響が想定される。今後の影響の規模については不透明な状況である。

大阪

- 2月は、沖縄県内でのイベントやプロ野球キャンプにより注目度が高まったことから前年同月実績を上回った。
- 3月は沖縄県内で予定されていたイベントの中止による影響が懸念される。地震発生により、国内全体の旅行マインドは低下するものと見られる。

福岡

- 昨年からの路線整理にともなう提供座席数の減少、ANAによる福岡－石垣線の季節運航がなかったことから前年同月実績を下回った。
- 福岡方面からの旅行について大きな影響は報告されていない。しかし、沖縄県内で予定されていたイベントの中止や旅行マインドの低下による影響が懸念される。

名古屋

- 提供座席数が昨年に比べ減少していることや旅行料金の値上がりによる旅行需要減少の影響から、前年同月実績を下回った。
- 名古屋－那覇線が増便されるが実質的には座席数は減少するため、4月以降も団体客を中心に苦戦するものと見られる。また、地震等に伴う旅行マインド低下の影響も懸念される。

台湾

- 今年の旧正月連休は昨年に比べて短かったこと、昨年は8便あった復興航空のチャーター便の運航がなかったことから前年同月実績を下回った。
- 台湾政府は特別に必要な理由がなければ日本への渡航を見合わせることを指示しており、今後の影響が懸念される。

韓国

- 航空定期便が2月中旬までデイリー運航だったこと、釜山からのチャーター便の運航があったことから前年同月実績を上回った。
- 放射性物質の広がり等を懸念して3月の旅行はキャンセルが相次いでいる。4月以降のキャンセル数も増加しており厳しい状況である。

中国本土

- 昨年は2月に多く造成された旧正月連休を利用したチャーター便やツアーが、今年は1月末にシフトしたことから前年同月実績を下回った。
- 当面、VJ事業による広告宣伝や一般消費者向けプロモーションは中止される。沖縄旅行のキャンセルも発生しており厳しい状況である。

香港

- 2月は、旧正月の旅行需要が好調であり、航空定期便も昨年よりも週5便多い運航状況だったことから、前年同月実績を上回った。
- 沖縄への旅行のキャンセルが相次いでいる。4月以降のキャンセルも増加しており、厳しい状況である。

■ 4月のトピックス

中旬	中旬・下旬
琉球海炎祭2011 2011年4月16日(土)	石垣島トライアスロン2011 4月17日(日) 全日本トライアスロン宮古島大会2011 4月24日(日)

平成23年(2011年) 入域観光客統計概況 3月

平成23年4月公表資料

3月の観光客数は、43万6,400人。
対前年同月比 △10万8,500人、△19.9%
～平成22年12月から4ヶ月連続で前年同月実績を下回った～

国内外別入域状況

区分	入域観光客数	前年同月実績	前年同月比(人)	前年同月比(%)
国内客	428,000 人	529,800 人	△ 101,800 人	△ 19.2%
外国客	8,400 人	15,100 人	△ 6,700 人	△ 44.4%
合計	436,400 人	544,900 人	△ 108,500 人	△ 19.9%

地域別入域状況(国内)

区分	入域観光客数	前年同月実績	前年同月比(人)	前年同月比(%)	構成比
東京	193,500 人	253,400 人	△ 59,900 人	△ 23.6%	45.2%
関西方面	85,500 人	95,900 人	△ 10,400 人	△ 10.8%	20.0%
福岡方面	58,500 人	70,100 人	△ 11,600 人	△ 16.5%	13.7%
名古屋	45,800 人	52,300 人	△ 6,500 人	△ 12.4%	10.7%
その他	44,700 人	58,100 人	△ 13,400 人	△ 23.1%	10.4%
合計	428,000 人	529,800 人	△ 101,800 人	△ 19.2%	100.0%

国籍別入域状況(海外)

区分	外国人観光客数	前年同月実績	前年同月比(人)	前年同月比(%)	構成比
台湾	2,300 人	3,500 人	△ 1,200 人	△ 34.3%	27.4%
韓国	800 人	1,100 人	△ 300 人	△ 27.3%	9.5%
中国本土	100 人	200 人	△ 100 人	△ 50.0%	1.2%
香港	2,100 人	2,200 人	△ 100 人	△ 4.5%	25.0%
アメリカ	600 人	1,700 人	△ 1,100 人	△ 64.7%	7.1%
イギリス(本国)	200 人	- 人	- 人	-	2.4%
その他	2,300 人	6,400 人	△ 4,100 人	△ 64.0%	27.4%
合計	8,400 人	15,100 人	△ 6,700 人	△ 44.4%	100.0%

※イギリスは、平成22年4月から集計を始めた。

※今月の特例上陸者数は1,000人。

概況と見通し

【国内】

- 3月は、東日本大震災による欠航や旅行キャンセルの影響を受け、前年同月実績を大きく下回った。
- 4月、5月は、震災による旅行マインドの低下による新規予約の低迷や提供座席数の減少等を受け厳しい状況が続く見通し。

【海外】

- 昨年3月に1回寄港した大型クルーズ船(約5,000人送客)の寄港がなかったことが大きな減少要因であり、加えて、震災の影響で旅行のキャンセルが発生したことから前年同月実績を下回った。
- 4月についても、震災の影響に加え、昨年2回寄港した上記クルーズ船の寄港がないことから大幅な減少が見込まれる。5月以降は、クルーズ船や航空定期便が前年並みに推移する見込みであるが、震災の影響により厳しい見通し。

東京

- 震災発生後から航空会社各社の欠航、個人客、特に家族旅行のキャンセルが相次いだことから年同月実績を下回った。
- 4、5月は団体旅行のキャンセルが多く出ており、6、7月も新規予約は低迷している。東北地方からの主な経由地となる東京からの旅行は今後も手控えられ、厳しい状況が続くものと見られる。

大阪

- 3月は、震災が直接影響しなかった関西地方も旅行マインドの低下や路線縮小の影響を受け、前年同月実績を下回った。
- 4月については、路線縮小の影響を受けて前年同月実績を下回る見通し。6月以降、神戸路線の廃止から1年が経過し対前年比として減少幅は縮小する見通し。

福岡

- 昨年からの路線縮小にともなう提供座席数の減少、東日本大震災による旅行マインドの低下により前年同月実績を下回った。
- 旅行会社各社の予約状況は、4月は約70%、5月は約80%となっている。昨年運航された福岡－石垣路線の運航が今年はないことから前年同月実績を下回るものと見られる。

名古屋

- 前年同月と比較し提供座席数が減少していること、震災に伴う旅行マインドの低下から前年同月実績を下回った。
- 旅行会社各社の予約状況については、ばらつきがあるものの、スカイマークが就航を予定している6月までは、前年同期実績を下回るものと見られる。

台湾

- 昨年3月約200人を送客した復興航空チャーター便の運航がなかったこと、震災による旅行のキャンセルがあったことから、前年同月実績を下回った。
- 4月10日から昨年よりも1ヶ月早くクルーズ船の寄港が再開されること、空路については震災の影響を受けることから、台湾総数としては、今後微減で推移するものと見られる。

韓国

- 震災後、ツアーのキャンセルの発生及び新規予約が低迷したことから、前年同月実績を下回った。
- 4月はジンエアーによるチャーター便の運航、インセンティブツアーの催行等明るい話題があるものの、福島第一原発が予断を許さない状況であることから当面は厳しい状況が続くものと見られる。

中国本土

- VJ事業による広告宣伝や一般消費者向けプロモーションは中止されている。沖縄旅行のキャンセルも相次ぎ前年実績を下回った。
- 海南航空の北京－那覇線の就航が4月末から6月になったこと、中国東方航空の上海－那覇線の増便も7月以降となったことから今後も厳しい状況が続くものと見られる。

香港

- 沖縄へのツアーはキャンセルが相次いだことから前年同月実績を下回った。
- 香港ドラゴン航空も3月末から7月まで運航を取りやめているものの、4月中旬から沖縄ツアーを販売再開している旅行社も出てきており、序々に回復に向かうものと見られる。

5月のトピックス

上旬	中旬
第37回 那覇ハーリー 2011年5月3日(火)～5日(木)	第12回 ビーチバレー宮古島大会2011 2011年5月21日(土)、22日(日)